

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2022年 5月 10日 提出

1. 研究課題名	
口述史と資料に基づく生活空間の GIS データベース化: 滋賀県栗東市の旧街道筋集落を中心に (英文課題名 Building a GIS Database of Living Space Based on Oral History and Documents: Focusing on Old Roadside Settlements in Ritto City, Shiga Prefecture)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) かさい よしのり	所属機関・職名
笠井 賢紀	慶應義塾大学・准教授
3. 研究分担者 (合計:5名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
岡部佳世(おかべかよ)	LatLng 主任研究員
森岡渉(もりおかわたる)	Ph.D. student in Department of Geography & GIScience, University of Illinois at Urbana-Champaign
中川敦之(なかがわあつし)	栗東歴史民俗博物館・学芸員
竹山和弘(たけやまかずひろ)	NPO 法人くらすむ滋賀・理事長
松本章伸(まつもとあきのぶ)	日本学術振興会特別研究員 PD

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>本研究は、口述史と、世帯や博物館に所蔵されている資料群から生活空間に関する諸データを地理情報システム(GIS)データとしてアーカイブ化し活用を図る試みである。行政、研究機関、住民が資料、記録、記憶を持ち寄るだけでなく、協働して活用を図る事例として国際的に発信して学術・実践に寄与したい。</p> <p>対象地域は滋賀県栗東市である。旧東海道沿いを中心に各集落には各世帯が所蔵している資料が残り、地域誌が盛んに編まれるなど活用可能な情報が多い。加えて、古くから旅行者の往来のほか、日常生活における集落間移動・交流、共有田や用水など生活空間に関する地理的情報は多いが、十分に活用されてこなかったため、本研究で収集、整理、可視化を図るものである。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2021年度はコロナ禍のため現地調査に大幅な制限があった。とはいえ、(1)栗東歴史民俗博物館所蔵の古地図類を確認し、字限図(小字ごとの地割図)の撮影を終えることができたこと、(2)字限図や住宅地図情報を用いた小字・大字境界のGISデータ化を数地区分実施することで、作業行程の全体像が見えたこと、(3)ArcGISやLeaflet(JavaScript パッケージ)を用いてデータの処理や公表についての目途がたったことなどの成果が挙げた。</p>

6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 著書

(2) 論文

(3) 研究発表等

- 「住居を媒介とした生活史調査の方法—滋賀県栗東市の街道筋集落での調査を事例に—」、2021年6月、日本生活学会第48回研究発表大会、Zoom、笠井賢紀、査読有
- 「滋賀県栗東市の自治会活動からみる生活圏の可視化」地理情報システム学会第30回学術研究発表大会、2021年10月31日、Zoom、岡部佳世、森岡渉、笠井賢紀、中川敦之、竹山和弘、松本章伸、査読有
- “Utilizing Allotment of Land in Chiken-torisirabe-soezu along Tokaido in Ritto City, Shiga Prefecture”, CSIS Days 2021, Zoom Webinar, Okabe, K., Y. Kasai, A. Nakagawa, K. Takeyama, W. Morioka, A. Matsumoto, Nov 20, 2021 査読無
- “Exploring Local Histories by Creating Web Maps with Uni High Students”, UIUC SESE Research Review, Feb 28, 2022, W. Morioka, 査読無

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

- 「「家屋を取り巻く生活史調査」方法論の構築——住み継ぐ実践に向けた実証研究——」、基盤研究(C)、2020.4-2023.3、研究代表(笠井賢紀)
- 「縮小・高齢社会のレジリエンスに貢献する高齢者の生活経験の質的研究」学術変革領域研究(A)公募研究、2021.10-2023.3、研究代表(笠井賢紀)
- 「伊勢参宮ツーリズムの近代史に関する学際的研究」基盤研究(B)、2021.4-2024.3、研究分担

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

- 「住み継ぐまちづくりにむけた住まいの記憶史取材とその方法論構築」日本生活学会生活学プロジェクト、2021.6-2022.2、研究代表(竹山和弘)・研究分担(笠井賢紀)
- 「東アジアを中心とした諸地域における歴史実践とパブリック・ヒストリー」高橋産業経済研究財団支援学術プロジェクト、2021.4-2023.3、研究分担(笠井賢紀、竹山和弘、松本章伸)

(9) その他